

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	体育	特進文系	3	体育科教員
教科書	現代高等保健体育				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる ※3学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
図書資料の活用	必要があれば授業内で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	○オリエンテーション(新学期・実技指導・内) ○新体力テスト 【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	5		【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。 【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
2	7	現代高等保健体育	【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
3	11	現代高等保健体育	【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。 【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
	12		【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
3	1	現代高等保健体育	【グラウンド・体育館・柔道】持久走 【ダンス】 ・3年次体育祭ダンス発表振り付け指導 ※実技テストも行う。
	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	保健	特進文系	1	松岡 横山 佐藤 村山 城戸
教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。				
考査	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題				
	観点② 授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題				
	観点③ ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含） レポート提出				
授業のねらい・進め方・注意点	○環境問題において知識理解を深めるとともに今後の生活の中で学んだことを理解して日々の生活に生かせるようにする。 ○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。 ○テストについては各学期末に行う。 ○各学期にノートの確認を行う。				
図書資料の活用	必要があれば授業内で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	3単元 01.ライフステージと健康 02.思春期と健康 03.性意識と性行動の選択 04.妊娠・出産と健康 05.避妊法と人工妊娠中絶 06.結婚生活と健康
	5		
	6		
2	7	現代高等保健体育	4単元 01.大気汚染と健康 02.水質汚濁・土壌汚染と健康 03.環境と健康にかかわる対策 04.ごみの処理と上下水道の整備 05.食品の安全性 06.食品衛生に関わる活動
	9		
	10		
3	11	現代高等保健体育	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法
	12		
	1		
3	2	現代高等保健体育	
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	家庭科	家庭基礎	進学文系	2	矢部
教科書	大修館書店「Creative Living『家庭基礎』で生活をつくろう」				
副教材	教育図書「家庭科55デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ」				
評価基準	観点① 知識・技能 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活，衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて課題を見だし，表現を工夫するなど，生活を創造する能力を身につけていること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて関心を持ちその充実向上を目指して主体的に取り組む態度を身につけていること。				
考査・評価方法	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 観点①②共に40点分（内各10点は実技点）、観点③20点の100点満点のテストを実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: (観点① 50+観点② 50)x80% + 観点③ 20 3学期: (観点① 50+観点② 50)x80% + 観点③ 20 実技課題は学期によって異なるものが出題される。				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	家庭科の授業では、教科書や資料を読んで「知識・技能」を得るだけでなく、その「知識技能」が実際に生活でいかせるよう、実習や実験によって体験したり、他者との話し合いによって考えを共有し合い、自分で問題を見つけ調べたりすることで、解決していく力をつけることをねらいとする。				
図書資料の活用	郷土料理レポート作成、ロールプレイングで悪質商法をシミュレーションする際に図書室を活用予定				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		<生活のマネジメント> 1 生涯，発達し続ける 2 青年期の課題と自立 3 ひとり暮らし 4 家族について 5 子供の世界を知る 親になること	生涯発達の考えかたに立ち，各ライフステージごとの特徴と課題について理解する。 自分の生活と自分自身について自己理解を深める。 住宅情報誌を利用し初期費用の算出やアルバイトについて考える。 家族と世帯について理解し，現代の家族の特徴と社会とのかかわりについて理解する。 子どもの時期は人としての土台をつくる重要な時期であることを理解する。 おやつ実習および絵本作り
2		<食生活のマネジメント> 1 体と心を満たす食事 2 調理のワザを身につける 3 郷土食について 4 人生100年時代の高齢期	食事の持つ意味を知る。 現在の食生活の現状を理解し，どのようにすれば健康的な食生活が送れるのか考える。 調理を科学的に理解する態度を養う。 沖縄修学旅行にむけての事前学習 調理実習および野菜の切り方テスト 人間の発達の完成期とともに現代社会の課題でもある高齢期への関心を高める。
3		<消費者教育のマネジメント> 1 18歳で変わる消費生活 2 進むキャッシュレス化	消費にかかわる契約について理解する。 契約を交わす際の注意点，発生する法的責任，契約に関するトラブルについて知る。 キャッシュレス化にともない，みえにくいお金の動きを的確にとらえられるような意識的な家計管理が必要であることを理解する。

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	論理国語	選抜	2	小平
教科書	数研出版				
副教材	教科書準拠ワーク、ニューエイジ、top2500、現代文単語				
評価基準	観点① 知識・技能 ・語彙力の確認 ・文章構成の理解（文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解） ・情報の扱い方を理解する。（情報の重要度による整理、推論）				
	観点② 思考力・判断力・表現力 文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
考査・評価方法	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	【授業のねらい】 文章を読解するというのはどういうことかを理解し、自身の人生を豊かにする。 【進め方】 ipadは基本的に使用しないので、準備の必要はない。 教科書、ノート、筆記用具を始業前に机の上に準備しておく。チャイムが鳴る前に着席して待っていること。 適宜漢字や語彙の小テストを行う。（観点③に加味） 授業中の禁止ワード「わかりません」				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		手の変幻 ニューエイジ1~3 弱いつながら 胆力について ニューエイジ4,5	文章の精読
		夏休み宿題ニューエイジ6~10	
2		「内的成長」社会へ ニューエイジ11,12 国境を越える言葉 ニューエイジ13,14 日本語は非論理的か ニューエイジ15 疑似群衆の時代 (p122、9行目~)	文章の精読
		冬休み宿題 ニューエイジ16~19	
3		「安楽」への全体主義 ニューエイジ20~23	文章の精読

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	文学国語	選抜文系	2	平山
教科書	文学国語（数研出版）				
副教材	準拠ワーク（数研出版）、ニューエイジ現代文3（第一学習者）、げんたん（いっずな書店）				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること。</p> <p>同値・言い換えや逆接などの文の構造を正しく理解できること。</p> <p>作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身についていること。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいこと（作品テーマ）を的確に捉え、記述したり口頭で表現できること。</p> <p>登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>ノートの内容に工夫があり、ワーク等の提出物をしっかりと管理し、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。</p>				
	<p>考査・評価方法</p> <p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p> <p>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p> <p>観点③：ノート提出（5点）、ワーク等提出物（5点）授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）（5点）、読書活動（5点）</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。 ・授業冒頭の5分は読書を行う。 				
図書資料の活用	適宜授業内で紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1 『山月記』 中島敦	代表的な作品を読み、小説とはどのようなものかを知る。
	5	「ニューエイジ現代文3」5,9 中間考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	6	2 『鍋セット』 角田光代	平成の小説を読み、内容・構成・展開を捉える。
2	7	「ニューエイジ現代文」15,17 期末考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	9	3 『ナイン』 井上ひさし	昭和後期の小説を読み、内容解釈・文体の考察を行う。
	10	「ニューエイジ現代文3」21 中間考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
3	11	4 『山椒魚』 井伏鱒二	昭和初期の小説を読み、内容を解釈し、作品を基に考えを深める。
	12	「演習問題」 期末考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
3	1	5 『こころ』 夏目漱石	大正の小説を読み、内容解釈し考えを深める。
	2	「演習問題」	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
3	3	学年末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	古典探究	特進文系	2	大須賀
教科書	『古典探究』数研出版 2年次では主に「古文編・漢文編I」を扱う				
副教材	・教科書準拠学習ノート ・古典の手引きおよび学習ノート 昨年に引き続きとして ・漢文入門 ・古文単語330				
評価基準	観点① 知識・技能 古文：単語・文法・古典常識を身につけ、内容理解ができるようにする 漢文：単語・句法・歴史的背景を身につけ、内容理解につなげる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 現代語訳などができ、登場人物などの心情や作品の主題を理解する 作品がその後の文学に与えた影響を考える				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業ノートでは、予習・復習を表現し、工夫する。ワークは直しをしっかりと行う。				
	小テストでは高得点を目指し、授業内では積極的に話し合い発言する。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 単語、文法、古文常識、句法、語句などの知識				
	観点② 現代語訳、文脈に即した内容理解、表現の特徴の理解				
	観点③ ①ノート提出 ②ワーク提出 ③課題(小テスト) ④授業姿勢				
授業のねらい・進め方・注意点	1年次で学習した「言語文化」は、古文、漢文、近代現代小説から成り立っていた。「古典探究」では古文と漢文を深く学習する。古文や漢文を学習することで当時の人の感性を理解することができる。また、当時の人と現代人との感性を比較することで、われわれ現代人が当たり前と考えている感性を見直すことができる。そのためには、文法、単語、句形の知識を用いて、自力で現代語訳し、内容を理解する必要がある。授業では音読、ペアワーク、問題演習などの活動を通して、古文や漢文の解釈に必要な知識や技法を身に付けていく。それに伴い、スケールテストにも対応できる学力を身に付けていく。				
図書資料の活用	岩波書店の『古典文学大系』などを用いて解釈の助けとする。教科書の同作品の別の部分を見て古典文学を味わう。解釈に関わる本を読む。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ノートの取り方・受け方ガイダンス 『十訓抄』大江山	・工夫の仕方、予習について説明 ・助動詞と助詞と敬語の理解
	5	(GWまでの課題:『古典の手引き』用言) 『古典の手引き』助詞 『漢文入門』使役・受身 ※小テスト:助詞	・当意即妙についての理解 ・用言の復習、随筆の理解 ・受け身と使役の復習
	6	【中間考査】 『大和物語』鳥飼の院 『漢文入門』否定①②	・敬語の理解 ・主語の取り方 ・否定の理解
	7	『古典の手引き』敬語 ※小テスト:敬語 【期末考査】	※古文単語:1~150(1年次復習)
2	9	休み明け 文法単語テスト 『更級日記』東路の道の果て 『古典の手引き』助動詞 『漢文入門』疑問反語① ※小テスト:古文助動詞	・源氏物語の影響について ・敬語の理解 ・古典常識の理解 ・疑問反語の理解
	10	【中間考査】 『源氏物語』光源氏誕生 『古典の手引き』助動詞 『漢文入門』比較比況 仮定① ※小テスト:助動詞 【期末考査】	・源氏物語の影響について ・比較比況と仮定の理解 ・敬語の理解 ※古文単語 181~280
3	3	休み明け 文法単語テスト 『大鏡』競べ弓 『漢文入門』限定詠嘆 否定③ 使役② 受身② 漢文思想 【学年末】	・敬語の理解 ・限定詠嘆の理解 ・諸子百家の理解 ※古文単語 281~330+151~180

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴	世界史探究	特進	4	山本
教科書	詳説 世界史探究				
副教材	世界史探求 詳説世界史 授業用 整理ノート 山川 詳説世界史図録 第5版				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 「歴史総合」の学習によって身に付けた力を基礎とし、世界の歴史のなぞ組みと展開を理解する。そのために時代区分・地理的条件・歴史用語を正しく理解する。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 世界地域だけでなく、日本の歴史と関連付けながら歴史を理解し、事象の意味や意義、特色などを考察することができる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 世界史は、「暗記」と決めつけず世界の歴史を想像し、自分の言葉で語ることができることが肝要。課題には主体的に取り組むこと。(夏・冬休みにも課題がある)</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>○観点3については各考査の振り返りだけでなく、授業内の生徒どうしの会話・担当者との会話・発問への解答・ノートにおける工夫などを評価する。</p>				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	第一部 諸地域の歴史的特質の形成	古代インド・中国文明 秦漢帝国・中国の動乱と変容
	5	中間考査	南アジアと東南アジア ギリシア・ローマの歴史
	6		ローマの歴史（共和政以降） イスラームの成立とアラブ世界 民族移動とヨーロッパ世界の形成
7	期末考査 夏期講習	南北アメリカ文明・中央ユーラシア	
2	9	愛二部 諸地域の交流・再編	イスラームの伝播と西アジア
	10	中間考査	中世ヨーロッパ モンゴルと東アジア世界
	11		大交易時代 アジアの帝国
	12	期末考査 冬期講習	近世ヨーロッパの動向 文化史（予定）
3	1	第三部 諸地域の結合・変容	産業革命・環大西洋革命
	2		イギリスと欧米諸国 アジア諸国の動揺

図書資料の活用	
---------	--

		春期講習	帝国主義とアジアの民族運動
--	--	------	---------------

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴	日本史 発展	特進 文系	4	小倉
教科書	山川出版詳説日本史探究				
副教材	日本史重要語句Check List(啓隆社) 図説日本史通覧(帝国書院)				
評価基準	観点① 知識・技能 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問の答えを考える。資料を比較し、より適切な答えを探る。調べ考えたものを表現する。 ：我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。 ・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。				
図書資料の活用	・授業に関連する図書室資料を紹介する。 ・赤本を紹介する。 ・課題で、書籍や新聞を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書 副教材	東アジアの動向とヤマト政権の発展 大化改新 奈良時代の政争 摂関政治 負名体制への移行 武士の台頭
	5月下旬	教科書 副教材	平氏政権・源平の争乱 執権政治の展開 蒙古襲来と鎌倉幕府滅亡 室町幕府の成立と応仁の乱
	7月上旬	教科書 副教材	戦国時代 織豊政権
2	9月	教科書 副教材	幕藩体制の成立 文治政治の展開 三大改革 幕末の動乱 明治維新
	10月下旬	教科書 副教材	自由民権運動 立憲国家の成立 日清日露戦争 大正デモクラシー 昭和初期の軍国主義
	12月上旬	教科書 副教材	自由民権運動 立憲国家の成立 日清日露戦争 大正デモクラシー 昭和初期の軍国主義
3	1月	教科書 副教材	アジア太平洋戦争 GHQ占領政策 講話と安保条約 高度経済成長 現代の日本
	3月上旬	教科書 副教材	アジア太平洋戦争 GHQ占領政策 講話と安保条約 高度経済成長 現代の日本

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴公民	地理総合	特進文系	2	佐々木
教科書	『高校生の地理総合』(帝国書院)、『新詳高等地図』(帝国書院)				
副教材	『高校生の地理総合ノート』(帝国書院)				
評価基準	観点① 知識・技能 基本的な知識を身に付け、その役割、有用性を理解しているか。地図、資料などから現代世界の姿を読み取る技能を身に付けているか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の国々はどのように結びついているのか、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかを、地図を通して、多面的・多角的に考察し、表現しているか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	(ねらい)世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察し、国際理解を深めていく。また、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察し、安心できる社会を構築するためにどう行動するかを考えていく。 (注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に付けていたらよいかを考えながら、授業を受けてください。				
図書資料の活用	授業中に図書資料を紹介する。 新聞を読み、レポートを提出する課題を課す。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	世界の地形と人々の生活	生活と地形のかかわり
	5月	現代世界の国家と領域	河川・海岸の地形 氷河・カルスト地形・乾燥地形 国家の領域と国境
	6月	世界の気候と人々の生活	生活と気候のかかわり 雨温図・景観写真 各気候帯
	7月	世界の産業と人々の生活	生活を支える農業の発展 生活を支える工業の発展
			期末考査
2	9月	地図から見る国内や国家間の結びつき	国際機関・貿易・交通通信・観光
	10月	多様な生活文化と地理的環境 東アジア	経済発展による生活文化の変化
	11月	ヨーロッパ 地球的課題と国際協力	伝統の継承と生活文化のかかわり 人口問題 食糧問題
	12月	期末考査	
3	1月	自然環境と防災	日本の自然環境 地震津波や火山活動による災害と防災
	2月		気象災害と防災 自然災害への備え
	3月	学年末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	化学基礎	特進文系	2	筒井
教科書	化学基礎academia				
副教材	アクセスノート化学基礎				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。</p>				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施				
	<p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 <p>※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。</p>				
図書資料の活用	<p>化学に興味のある人は以下の文献を参考にしてください。 東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい 化学</p>				

授業の計画

※ 授業の進度により、多少変更することもあります

学期	月	教材	内容
1	4	プリント	共有結合と分子間力 金属結合
	5	プリント	化学結合と物質
	6	プリント	物質と化学反応式
	7	プリント	物質と化学反応式
2	9	プリント	酸と塩基
	10	プリント	酸と塩基 実験：中和滴定
	11	プリント	酸化還元反応
	12	プリント	酸化還元反応 実験：酸化還元滴定
3	1	プリント	身の回りの酸化還元反応
	2		共通テスト対策
	3		共通テスト対策

2025年度

学年	教科	科目	単位	担当者
2	数学	数学II	4	駒崎
教科書	数研出版 数学II			
副教材	数研出版 4STEP II+B			
評価基準	観点① 知識・技能 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			
	観点② 思考力・判断力・表現力 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。			
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。			
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20			
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題、4STEPのAレベルの問題 50点			
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点			
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点			
授業のねらい・進め方・注意点	数学IAの内容を基礎にして、より発展した内容を学んでいきます。数学IIで学ぶ内容は、高校数学の非常に重要な部分を多く担っています。教科書で学ぶ内容を基本にしながらも、応用的な内容も積極的に扱っていく予定です。1年次よりも授業スピードが速くなりますが、必死についてきてください。 ・授業中は副教材(4STEP 数学II+B)も使用する予定なので、毎授業必ず持ってきてください。 ・数学は毎日少しずつでも問題を解いてゆかねばなりません。授業の進度にあわせて、4stepをどんどん自主的に解いていくことをオススメします。 ・数学IAと比べて、数学IIで学ぶ内容はかなり高度になります。数学IAの内容をいかにしっかりと理解できているかが鍵になります。必要に応じて数学IAの内容を復習しましょう。			

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書・副教材	第1章 式と証明
	5		第2章 複素数と方程式
	6		第3章 図形と方程式
2	7	教科書・副教材	第4章 三角関数
	9		第5章 指数関数と対数関数
	10		
3	11	教科書・副教材	第6章 微分法と積分法
	12		
	1		
3	2	教科書・副教材	
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学B	特進理系・特進文系	2	花澤
教科書	数研出版数学Bおよび数学C				
副教材	4STEP数学IIB+C(ベクトル) *参考書としては旺文社「総合的研究 数学II+B」を推奨				
評価基準	観点① 知識・技能 問題を解くための最低限の知識（基本的数列・シグマ記号の扱い・数学的帰納法の原理・漸化式・ベクトルの加減実数倍・基底による表示の一意性・内積etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ①に上げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方・論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜその式変形をするのか?」「なぜその定理・公式があるのか?」等を常に考えましょう。 ・理解だけでは不十分で、自由自在に知識を使える必要があります。そのためには「イメージで理解する」「すでにわかっている知識と新しい知識を連関させる」「自分で徹底的に反復する」ことが重要です。イメージや知識の連関は授業で補えますが、反復のためには自学が必要です。 ・チャートはおすすめしません。「この問題はこのパターンで解く」を集めることは数学の学習ではありません。旺文社の「総合的研究」あるいは文英堂「合格る数学」で事項の裏にある原理や論理を追求してください。 ・その他おすすめ参考書→「数学の真髄 論理・写像」「数学の真髄 ベクトル」 				
図書資料の活用	ルネ・ドーマル「類推の山」 論理による類推とはなにかについて、鮮明なイメージを与えてくれます。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 参考書 ノート	数列とは 基本的数列の扱い シグマ記号
	5	4STEP	数列を式で説明するのが漸化式 数学的帰納法
	6 7		
2		教科書 参考書 ノート 4STEP	ベクトルを点の移動としてイメージする ベクトルの和・差 ベクトルの拡大縮小=実数倍 ベクトルを具体的に説明したものが成分表示 基本的な移動の方向=基底 平面の基底は2つで良い 内積の計算 ベクトル方程式は軌跡のベクトル版
	3	教科書 参考書 ノート 4STEP	空間ベクトルも点の移動 成分表示は3つになる 基底も3つ必要 空間の方程式を得るのはベクトルが便利

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	英語	EC II	特進	4	石川
教科書	FLEX English Communication II (増進堂)				
副教材	大学入試 英語長文読解問題集 Vertex Level 3 リンケージ英語構文 (旺文社)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>長文：扱った長文の表現をoutputできる、文章展開のキーワードがわかる</p> <p>構文：基本例文で扱った事項をもとに、構文の役割および日本語訳ができる</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>長文：各パラグラフのTopic Sentenceを見極める、Summary & Opinionが言える</p> <p>構文：整序英作文および英作文ができる</p> <p>入試問題：授業で習ったことを入試問題で応用できるかどうかをチェックする</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>英語アプリ レシピの取り組み</p> <p>暗唱/筆記テスト (リンケージ英語構文の基本例文)</p>				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>言語習得の基本は、「英語を理解すること(input)」「理解した英語を内在化すること(intake)」「内在化した英語を使い発信すること(output)」</p> <p>【Step 1：理解】①リスニング(1回)→②速読→③精読</p> <p>【Step 2：内在化その1】音源付き音読(Reading Aloud, Overlapping)、音源なし音読</p> <p>【Step 3：内在化その2】シャドーイング</p> <p>【Step 4：発信】要約・意見を伝える (思考言語を日→英へ変換、自動化させる)</p> <p>*Booster Bookは精読の補助として使う</p> <p>*Listening, Reading, Speakingの3技能を徹底的に鍛えることにより、どのような入試問題にも対応できる力をつける</p> <p>*リンケージ英語構文は「読める」レベルに到達するための橋渡し</p>				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	Vertex Unit 1-4	Vertexは左記の進め方 リンケージ英語構文は、1考査ごとに1章分進めていく 考査ごとに入試問題も扱う
	5	リンケージ 第1章 中間考査	
	6	Vertex Unit 5-8 リンケージ 第2章	
	7	期末考査	
2	9	Vertex Unit 9-12 リンケージ 第3章	同上
	10	中間考査 Vertex Unit 13-16	
	11	リンケージ 第4章	
	12	期末考査	
3	1	Vertex Unit 17-16 + 追加	同上
	2	リンケージ 第5章	
	3	学年末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	外国語	論理・表現II	特進文系・理系	2	久保田 祐正
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)				
副教材	英文法[強化]演習New Frame 650 New Edition (同上・別冊Mastering Aid付) Bright Stage 英文法・語法問題				
評価基準	観点① 知識・技能 ・ New Frame で基本項目を習得し、Exercise問題を正しく解ける				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・ New Frame対応項目のBright Stage問題を、①を元に正しく解ける				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ 日常の各種課題及び確認テストに、積極的に取り組んでいる				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業の ねらい・ 進め方・ 学習ア ドバイ ス	3段階で進めます。授業時数が少ないので、自宅で各自取り組むように指示するものが増えると思います。 ①New Frame各章最初のFramesを各自で解き、Mastering Aidで確認します。 ②New FrameのExercisesを解きます。解答解説は授業内で行います。 ③翌授業時に、対応するBright Stage問題を確認テストとして行います。				
図書資 料の活 用					

授業の計画

学期	月	教材	内容		
1	4	STEP 01	時制	★進度変更の場合は 都度連絡します。 1学期中間考査 1学期期末考査	
		STEP 02	態		
		STEP 03	助動詞		
		5	STEP 04		不定詞と動名詞
	STEP 05		不定詞		
	6	STEP 06	動名詞		
		STEP 07	分詞		
	7	STEP 08	動詞の語法		
2	9	STEP 09	イディオム [動詞関連]	2学期中間考査 2学期期末考査	
		STEP 10	仮定法		
		STEP 11	比較		
		10	STEP 12		代名詞
	STEP 13		形容詞と副詞の語法		
	11	STEP 14	イディオム [形・副関連]		
		STEP 15	会話表現①		
	16	STEP 16	関係詞		
		3	STEP 17		接続詞
	STEP 18		疑問と否定		
	STEP 19		名詞と冠詞の語法		
2	STEP 20		イディオム[名詞関連]		
	STEP 21		前置詞と群前置詞		
3	STEP 22		その他の重要文法事項		
	STEP 23		会話表現②		

二年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	二年次では、共通のテーマに基づいたフィールドワークを実施する。 また、フィールドワークの振り返りを兼ねて、特定分野の学問研究を行う。 個人でテーマを設定し個人での探究を行い、3学期に発表会を実施する。 一学期 防災をテーマとして、フィールドワーク・学問研究を行う。 二学期① 沖縄をテーマとして、ミニ探究を行う。 二学期② 個人でテーマを設定し個人探究を行う。 三学期 探究成果発表会に向けて個人探究を進める。
教材教具	<input type="checkbox"/> iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) <input type="checkbox"/> マイナビテキスト「locus Program」 <input type="checkbox"/> ルーブリック表 <input type="checkbox"/> その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	フィールドワーク・学問研究を行う。 授業の流れ (概要) 1. 防災新聞の紹介・発表 2. 防災のための地方自治体の取り組みを学ぶ 3. フィールドワークの準備・計画・発表 4. フィールドワーク 5. フィールドワークの振り返り 6. サプライチェーンについて学ぶ
夏休み	一学期の振り返りと二学期の準備
二学期	前半 沖縄をテーマにしたミニ探究 (1. 2. 3.) 後半 個人で設定したテーマに基づく探究 (4. 5.) 授業の流れ (概要) 1. 夏休みの課題についてグループ内で発表 2. 沖縄をテーマにしたミニ探究 3. ミニ探究成果発表 4. 個人のテーマ設定、ゼミ分け 5. 個人探究 【沖縄修学旅行】沖縄ミニ探究に基づくフィールドワーク

三学期	個人探究を進めて学年末の探究成果発表会の準備を進める。 授業の流れ (概要) 1. 個人の探究を進める。 2. ゼミ内での発表・振り返りを行う。 3. 学期末に探究成果発表会を行う。 【探究成果発表会について】 中間発表という位置づけで行う。 中間発表を踏まえて三年次一学期に再度取り組む。
-----	--

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習・修学旅行をフィールドワークとして位置付ける。 ・探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・校外学習や修学旅行を通じて、事前に調べたことや学んだことを現地での活動に活かす。 ・ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
※二年次は個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。 ①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。